体験談⑫

耐えがたきを耐えた時代を語り継ぐ

西　百合（にし　ゆり）91才

過去の戦争体験談を次世代の皆さん達に語り告げられるのは、大正、昭和一桁生まれの世代である。

昭和十八年十二月八日。

日本国の方からアメリカ国の真珠湾を攻撃して太平洋戦争が勃発した。

それ以来、アメリカの軍事力が強くて日本の統治下であった南方の島々、サイパン島、ガダルカナル島、パラオ諸島、マレーシア諸島、ミクロネシア諸島へ、大勢の日本兵が派遣されている所を、アメリカ軍に爆撃されて物資の補給が断たれて、大勢の兵士たちが餓死したり玉砕したりして、遺骨すら帰らない悲惨極まりない状況となった。戦争未経験者達にはわからない。戦争は絶対してはいけない事を肝に命じてください。

令和三年八月十五日で、太平洋戦争敗戦から七十六年になる。軍国主義の教育は、今の時代では考えられない。お国の為なら命を惜しまない義務教育を卒業した若者達が、特攻隊へ志願して命を落とす。教育で洗脳されると言うことは怖いですね。

昭和十九年末ごろから、南方の島々から本土に向って攻めてくるので、沖縄諸島や奄美諸島の島民達は、本土に縁故のいる人は疎開しなさいとの国からの指示があって、疎開する人たちを運ぶ客船を軍艦二隻で護衛して本土広島の呉港まで送り届けてくれた。

昭和十九年八月二十二日、戦火を逃れる為に沖縄から長崎へ疎開する学童たちを運ぶ対馬丸

が、鹿児島県の悪石島沖でアメリカ軍の潜水艦から魚雷を受けて撃沈して、千五百人の学童たちが尊い命を奪われた。

それ以後まもなく沖縄上陸して沖縄戦が始まり島民たちが殺され自殺したりして、戦争と言うのは目の前での殺し合いですから、残酷極まりない体験をした人達は、生涯脳裏に焼き付いて忘れる事は出来ません。戦争は絶対してはいけません。

戦時中は、食べる物や着る物がない。各家庭にある金属類は国から没収されて、「欲しがりません勝つまでは」の合言葉で毎日を過ごして来た。

義務教育を卒業したら、当時植民地であった満州国へ開拓義勇軍として派遣されて、食料増産するのに荒地を耕して農作物を植える。

本土では軍事工場で軍事用品を製作するのに働かされた。

昭和二十年はじめごろから、アメリカ軍の航空母船が紀伊半島沖から爆撃機B−29が神戸や大阪上空へ襲来して、軍事工場や住宅街などへ爆撃や焼夷弾を投下して火の海。人々は殺され、其の辺、焼け野原。

八月六日、広島原爆投下され、八月九日、長崎原爆投下された。

昭和二〇年八月十五日、終戦を宣言した。

当時の事を今になってふりかえって考えれば、厳しい時代の移り変りを体験してきた良い人生だったと思っています。

軍国主義の時代は男尊女卑で、女性はつらかった。

戦争に負けて手のひら返したように時代は変って、男女同権、人権を尊重する、差別のない時代

に変わってよかったと思っています。

　現在は平和で、贅沢三昧の世の中。戦時中は、耐え難きを耐え、忍び難きを忍び、の日々を過ごして来た。平和の有難さを痛切に感じて嬉しく思っています。